

歴史資料保全の活動が「ビッグコミック スピリッツ」で漫画になりました(2012/10/25)

テーマ：歴史資料保全，社会連携

URL：http://spi-net.jp/this_week/index.html（2012年10月現在）

「ギャラリーフェイク」で有名な漫画家・細野不二彦さんによって，東日本大震災後の歴史資料保全の活動が漫画に描かれました。前編は「週刊 BIG COMIC スピリッツ」（小学館，約30万部）NO.47，11月5日号（10月22日発売），後編は次号 NO.48（10月29日発売）に掲載されます。2回連載です。細野さんら7人の漫画家が「スピリッツ」や「少年サンデー」（小学館）などに特別に書き下ろした作品を来春に単行本化し，その印税を被災地に寄附する企画です。

細野さんの「ギャラリーフェイク」は，美術界の裏世界を描いて人気を博した作品です。雑誌だけではなく，テレビアニメとしても放映されました。NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク（略称：宮城資料ネット）が，古文書や古美術品などのレスキューをしていることに注目し，「特別篇」として漫画化したものです。

細野さんは作品のなかで，「こうした活動はフィクションではない，大震災直後，被災地各地において実際に行われたボランティアである。その中心となったのは東北大学の平川新教授が主催する宮城歴史資料保全ネットワークという実在のNPOだ」と紹介してくれています。主人公のフジタ・レイジと共に，宮城資料ネットメンバーが，いかがわしい古美術商から骨董品を守るストーリーになっております。

宮城資料ネット（理事長：平川新）は，2003年の宮城県北部地震のあとに設置された団体で，宮城県在住の歴史研究者（大学教員，博物館職員，大学院生）や市民などによって構成されています（東日本大震災後は全国からの入会者が増えました。会員数150人）。設立当初から東北アジア研究センターのプロジェクト研究部門「歴史資料保全のための地域連携研究ユニット」と連携して，主として旧仙台藩領地域の資料保全を展開してきました。全国の歴史・文化財関係者から，今もっとも注目されている団体です。こうした活動が母体となって，東北大学災害科学国際研究所に歴史資料保存研究分野が開設され，東北アジア研究センターに上廣倫理財団による「上廣歴史資料学研究部門」が設置されました。

漫画家の細野さんは，小学館の編集者から古文書や古美術品のレスキューをしている私たちの活動のことを聞いて関心をもったとのことでした。その小学館の編集者は，東北大学でおこなっている津波被災資料のレスキューやクリーニング作業にボランティアとして何度も参加していた人でした。

文責：平川新（人間・社会対応研究部門）